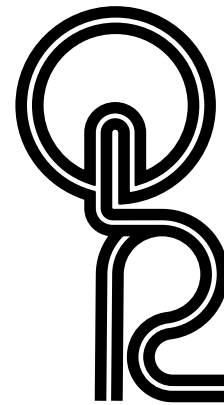


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 12 No.3, 2005



テフラ・火山研究委員会企画「関東平野の形成史」野外集会風景。  
千葉県屏風ヶ浦。(中里裕臣撮影)

---

Vol. 12 No. 3

June 1, 2005

2005年大会案内(第2報)・・・2	旧石器捏造資料に関する日本第四紀学
会告 倫理憲章の策定について・・・7	会会告・・・15
シンポジウム・サマースクール・会議	シンポジウム・野外集会報告・・・19
の案内・・・9	選挙管理委員会議事録・・・21
募集案内・・・11	幹事会議事録・・・22
INQUA SAQS 1st Circular・・・12	会員消息・・・23

---

## 第四紀学会2005年大会のお知らせ(第2報)

### 第四紀学会2005年大会案内

1. 日時・開催場所:2005年8月26日(金)~29日(月)・島根大学
2. 一般研究発表申し込み締切:2005年6月10日(金)
3. シンポジウム:「汽水域における完新世の古環境変動-自然環境の変遷と人為改変による環境変化-」
4. 巡検:「三瓶火山と埋没林」(8月29日実施.先着25名,申し込み締切8月13日(土))
5. 普及講演会:「人は自然環境にどのように向き合うのか-過去から現在,未来まで-」2005年8月28日(日)午後2時~5時,於:島根大学教養講義室棟1号館100番教室
6. 懇親会:2005年8月27日(土)午後6時~8時,於:島根大学生協食堂
7. 宿泊案内

### 1. 日時・開催場所の概要

研究発表,総会,評議委員会,懇親会,シンポジウム,普及講演会,巡検

日程:2005年8月26日(金)~8月29日(月)

実行委員会委員長:木村純一

連絡先:木村純一

〒690-8504 松江市西川津町1060  
島根大学総合理工学部地球資源環境学科  
E-mail: jkimura@riko.shimane-u.ac.jp  
Tel: 0852-32-6462 Fax: 0852-32-6469

開催場所:

島根大学 教養講義室棟1号館100番教室:

一般研究発表(口頭),シンポジウム,総会

島根大学 教養講義室棟1号館101番教室:

一般研究発表(ポスター)

島根大学 生協食堂:懇親会

普及講演会:島根大学 教養講義室棟1号館100番教室

(場所等の詳細は次報でお知らせします)

26日(金)一般講演,ポスターセッション,評議委員会(夕方)

27日(土)一般講演,総会(昼前),ポスターセッション,懇親会

28日(日)シンポジウム(午前)「汽水域における完新世の古環境変動-自然環境の変遷と

人為改変による環境変化-」

28日(日)普及講演会(午後)「人は自然環境にどのように向き合うのか-過去から現在,未来まで-」

29日(月)巡検「三瓶火山と埋没林」(案内者:中村唯史ほか)

### 2. 一般研究発表

2.1 一般発表の申し込みは,6月10日(金)です.まだの方はお急ぎ下さい.申し込みの詳細は,第四紀通信12-2号をご参照下さい.

### 2.2 ポスターセッション要領

ポスターは大会期間中(8月26日朝~8月28日昼まで)掲示できる予定ですが,講演数が多数の場合1日のみの掲示になるかもしれません.詳しくは第四紀通信12-4に掲載されるプログラムをご覧ください.

コアタイムには発表者はその場に立ち会い説明するものとします.また,ショートサマリー(各2-3分)も予定しています.詳しくは第四紀通信12-4に掲載されるプログラムをご覧ください.

ボード面積は1題あたり縦180cm,横90cmです.

発表番号・発表題名・発表者名をポスターのタイトルとして明記してください.

ポスター会場ではコンピューター・ビデオなどを使用した発表も可能ですが,使用する機器については発表者をご準備下さい.電源ケーブルや机などは実行委員会で準備します.これらの機器をポスター発表で使用される方,画鋏等で掲示できない重量物等の展示を希望される方は,必ず8月16日(火)までに郵送か電子メールで大会実行委員会に連絡して下さい(第四紀学会行事幹事宛ではありません.ご注意下さい).

### 2.3 口頭発表要領

オーラル・セッションの発表時間は1人およそ12分(質問時間を除く)程度を予定しています(発表件数によって変更の可能性有り).

会場では液晶プロジェクター,OHP,スライドが使用可能です.スクリーンは1枚です.2機種の同時投影はできませんのでご注意下さい.

液晶プロジェクターによる発表にはWINDOWSあるいはMACのパワーポイントが使用可能です.会場の講演受付にて事前にファイルを係員にお渡し下さい.メディアはCD-ROMもしくはUSBメモリ等,ひろく普及して

いるものでご準備下さい。メディアの不適合による転送不能などの不具合については、実行委員会は責任を負いませんのでご承知置きください。転送不能の場合やパワーポイント以外のソフトウェアをご使用の方は、ご自身のコンピュータをご使用下さい。なお、その場合接続に要する時間は講演時間に含まれます。

スライドをご使用の方は、事前に講演受付に提出して下さい。

講演受付などの詳細については、第四紀通信12-4(8月号)をご覧ください。

### 3. シンポジウム

本通信のシンポジウムプログラムの案内をご覧ください。

### 4. 巡検

「三瓶火山と三瓶小豆原埋没林」

案内者：福岡 孝・中村唯史

巡検の概要と日程：

8月29日(月)

- 9:00 JR山陰線・大田市(おおだし)駅に各自集合(バスへ乗車)
- 10:00 三瓶小豆原埋没林(縄文時代後期の巨木埋没樹群)
- 10:45 三瓶自然館
- 11:45 昼食
- 12:45 西の原露頭(1.6万年前以降の三瓶火山噴出物)
- 13:45 東の原(リフトで登頂、三瓶溶岩円頂丘群と室内火口)
- 15:20 佐田横見埋没林(最終氷期の埋没樹群)
- 16:30 出雲市駅(岡山行き特急17:01)
- 17:00 出雲空港(東京行き最終便18:30)
- \*大田市駅へのアクセス：松江(7:27) - 大田市(8:50)快速アクアライナー 1,110円, 所要時間1時間23分(4月29日現在)

地形図：1/2.5万 三瓶山西部, 三瓶山東部, 反辺

募集人員：25名

移動：中型バス

参加費用：4,500円(昼食代含む)

申込み方法：

参加を希望の方は、e-mailまたはハガキにて氏名、所属、連絡先(住所、電話、e-mailアドレス)、定員オーバーの場合キャンセル待ち希望の有無を明記の上、下記あてに申し込んで下さい。電話での受付はいたしません。受付後、個別にご連絡いたします。なお、参加費の徴収および巡検資料の受け渡しは、当日集合時に行います。

申込先：中村唯史

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8  
島根県立三瓶自然館

e-mail：

nakamura-tadashi@joe2.pref.shimane.jp

TEL：0854-86-0500

申し込み締め切り：8月13日(土)満席になり次第、終了します。

### 5. 普及講演会

本通信の普及講演会プログラムの案内をご覧ください。

### 6. 懇親会

日時：8月27日(土) 18時～20時

場所：島根大学生協食堂

参加費：一般：5,000円

院生・学生：2,500円

シジミ汁、出雲そば、島根の地酒、当日採れた魚の刺身など準備されています。懇親会の受付は大会当日に行います。

### 7. 宿泊

宿泊の案内と申し込みは、次ページにホテル一覧の案内を再録します。大会当日には高校生の中国地方吹奏楽大会が行われます。松江市内のビジネスホテルはたいへん混み合うことが予想されますので、できるだけ早い時期の予約をお願いいたします。なお、以下のウェブサイトからも同様の情報と各々の宿が参照できます。  
<http://www.city.matsue.shimane.jp/kankou/jp/yado/yado3.htm>

ビジネスホテルは、JR松江駅周辺に多数あります。JR松江駅から島根大学までの交通は、松江市営バスならびに一畑バスが便利です。所要時間は時間帯とコースによりますが、20-40分です。



宿泊施設マップ：スケール南北約6km.

No	ホテル/旅館	名称	0852-	No	ホテル/旅館	名称	0852-
1	ホ	アークホテル	26-7880	30	旅	ホテル一畑	22-0188
2	ホ	アルファーワン松江	31-2200	31	公	ホテル宍道湖	25-1155
3	ホ	アルファーワン第2松江	26-7800	32	公	ホテル白鳥	21-6195
4	公	ウェルハートピア松江	25-3224	33	ホ	松江アーバンホテル	22-0002
5	旅	大橋館	21-5168	34	ホ	松江シティホテル	25-4100
6	旅	大巾屋	21-2964	35	ホ	松江第2アーバンホテル	22-0002
7	旅	岡本旅館	24-6499	36	ホ	松江東急イン	27-0109
8	旅	景山旅館	21-4849	37	ホ	松江ニューアーバンホテル本館	23-0003
9	旅	グランドホテル水天閣	21-4910	38	ホ	松江ニューアーバンホテル別館	23-0003
10	ホ	ホテル1-2-3松江	27-3000	39	ホ	松江プラザホテル本館	26-6650
11	公	サンラボーむらくも	21-2670	40	ホ	松江プラザホテル別館	26-6650
12	公	島根県教育会館	25-6200	41	ホ	松江南口ホテル	27-2000
13	旅	松平閣	23-8000	42	ホ	松江ユニバーサルホテル本館	25-0001
14	ホ	東横イン松江駅前	60-1045	43	ホ	松江ユニバーサルホテル別館	25-8100
15	旅	竹原旅館	24-6576	44	ユ	松江レークサイドユースホステル	36-8620
16	旅	鶴屋旅館	21-3378	45	ホ	ホテル ルートイン松江	20-6211
17	旅	てんてん手毬	21-2655	46	旅	皆美館	21-5131
18	旅	なかしま旅館	25-1067	47	民	民宿にしむら	26-3928
19	旅	なにわー水	21-4132	48	他	ヤングイン松江	25-4500
20	旅	野津旅館	21-1525	49	旅	旅館あおやま	23-1556
21	公	パレステイまがたま	22-2054	50	旅	旅館おおさこ	22-0035
22	旅	ビジネス石田	21-5931	51	旅	旅館田中屋	21-3511
23	ホ	ビジネスホテル北松江	26-2910	52	旅	旅館寺津屋	21-3480
24	ホ	ビジネスホテル大栄	24-1515	53	旅	臨水亭	21-4839
25	ホ	ビジネスホテル山本	21-6121	54	旅	ルーミイかわせ	24-8715
26	ホ	ビジネスホテルレークイン	21-2424	55	公	レインボープラザ	27-6900
27	旅	ビジネス旅館やくも	21-1688	56	旅	渡部旅館	21-3413
28	ペ	ペンションとび田	36-6933	57	ホ	松江駅前ユニバーサルホテル	28-3000
29	旅	蓬萊荘	21-4337				

## シンポジウムプログラムの案内

## 汽水域における完新世の古環境変動

## - 自然環境の変遷と人為改変による環境変化 -

## &lt; 第四紀学会2005年大会実行委員会・島根大学汽水域研究センター共催 &gt;

日 時：2005年8月28日(日) 9:00-12:30

会 場：島根大学教養講義室棟1号館100番教室

世話人：瀬戸浩二・山田和芳・高田裕行(島根大・汽水)・坂井三郎(JAMSTEC)

9:00 ~ 9:05 趣旨説明 瀬戸浩二(島根大・汽水)

## &lt; 現世の汽水環境 - 古環境復元のための現世環境の研究 - &gt;

- S1 9:05 ~ 9:20 汽水環境における水質特性 - 中海・宍道湖を例として -  
坂井三郎(JAMSTEC-IFREE)・中屋 雅(島根大・地球)・狩野彰宏(広島大・理)・瀬戸浩二(島根大・汽水)・高安克己(島根大)
- S2 9:20 ~ 9:35 中海における現生貝形虫殻中の同位体比・化学組成と個体群の季節変化  
石田 桂(信州大・理)・入月俊明(島根大・総合理工)・石田義人・荒井章司(金沢大・理)・小草宏樹(島根大・総合理工)
- S3 9:35 ~ 9:50 汽水性二枚貝ヤマトシジミ *Corbicula japonica* にみられる殻体構造の変化  
山口啓子(島根大・生資)・野原佳織(島根大・地球)・瀬戸浩二(島根大・汽水)・相崎守弘(島根大・生資)

## &lt; 十年スケールの環境変化 - 人為改変と海面変化の記録 - &gt;

- S4 9:50 ~ 10:05 霞ヶ浦の湖岸における人為的環境変化と「自然再生」事業  
平井幸弘(専修大学)
- S5 10:05 ~ 10:20 自律的自然変動への人為的影響：汽水成堆積物に記録された1900年代の環境復元から  
野村律夫(島根大)\*招待講演
- S6 10:20 ~ 10:35 京都府北部に分布する海跡湖(阿蘇海)の湖底堆積物に見られる奇形珪藻種と湖沼環境  
田中里志・船守亜希子(京都教育大)・瀬戸浩二・高田裕行(島根大・汽水)・武蔵野 實(京都教育大)

休憩(10:35 ~ 10:45)

## &lt; 百年スケールの環境変化 - 古代遺跡と災害イベント - &gt;

- S7 10:45 ~ 11:00 出雲平野における花粉組成変遷と「歴史」による解釈  
渡辺正巳(文化財調査コンサルタント株式会社)
- S8 11:00 ~ 11:15 斐伊川の東流イベントとそれが及ぼす堆積環境への影響  
瀬戸浩二(島根大・汽水)・中武 誠(島根大・地球)・佐藤高晴(広島大・総科)
- S9 11:15 ~ 11:30 底生有孔虫化石群にもとづく過去1200年間の阿蘇海の貧酸素水塊と天橋立の変遷  
高田裕行・瀬戸浩二(島根大・汽水)・坂井三郎(JAMSTEC-IFREE)・田中里志(京都教育大・地学)・高安克己(島根大)

## &lt; 千年スケールの環境変動 - 気候変動と海水準変動 - &gt;

- S10 11:30 ~ 11:45 山陰中部地域における完新世の古地理と古海面  
中村唯史(三瓶自然館)
- S11 11:45 ~ 12:00 長尺コアの高精度解析にもとづく宍道湖水域の完新世古環境変動

山田和芳（島根大・汽水）・高安克己（島根大）

総合討論（12:00～12:30）

司会 酒井哲弥（島根大・総理工）

## 普及講演会プログラムの案内

### 人は自然環境にどのように向き合うのか

- 過去から現在，未来まで -

日時：2005年8月28日（日）14:00～17:00

会場：島根大学 教養講義室棟1号館100番教室

世話人：山田和芳（島根大学汽水域研究センター）

14:00-14:10 開会挨拶 大会実行委員長 木村純一（島根大・総合理工学部）

14:10-15:00 福澤仁之（首都大学東京・都市環境学部）

「湖沼年縞堆積物による地球環境変遷の将来予測：環境歴史学と2020年問題」

15:00-15:50 高安克己（島根大学・学術研究担当副学長）

「出雲古代文化の基盤としての出雲平野の形成」

- 休憩（10分） -

16:00-16:50 國井秀伸（島根大学・汽水域研究センター長）

「中海・宍道湖の自然再生は進むのか - ラムサール条約登録をまえに - 」

16:50-17:00 閉会挨拶 日本第四紀学会会長（予定）

1講演：50分（発表40分，質疑10分）

## 学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2005年度（2005年8月1日～2006年7月31日）を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教員氏名を明記のうえ、指導教員の署名または捺印を添えて、至急学会事務局まで郵送してください。有効期限が明記された学生証のコピーでもかまいません。また、本年度、学生会員として入会された方も提出願います。本届けが提出されない場合は、正会員会費にて会費請求がされますのでご注意ください。なお、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問い合わせ先：庶務幹事 久保純子（E-mail：sumik@waseda.jp）

送付先：〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階

日本第四紀学会事務局

提出方法：郵送に限ります。

## 会告 日本第四紀学会倫理憲章の策定について

日本第四紀学会幹事会は、2005年8月26～28日開催の大会（島根大学）時の総会に、評議員会の議を経て「日本第四紀学会倫理憲章（案）」を提出するため、準備を進めてまいりました。幹事会原案をここに提示し、より良い憲章を策定するために会員のみなさまの建設的なご意見を広くお寄せくださるようお願いする次第であります。

### 趣旨：

現代社会に果たす科学・技術の役割が急激に増大するにともない、科学者、技術者の倫理、規範のあり方が緊要な課題となりつつあります。信頼性の高い情報の発信の必要と共に、不正確なまた偽りの情報流布の事前防止と迅速な対処が求められています。1996年制定の科学技術基本法の第二期科学技術基本計画（2001-2005年度）では各学協会に「守るべき倫理に関するガイドラインの設定」を求めています。

また、日本学術会議「学術と社会常置委員会」の提言として「科学における不正行為とその防止策」がまとめられました。この提言では、科学者の研究遂行、成果の発表における「不正行為 scientific misconduct- 捏造・改ざん・盗用-」を中心に問題が提起され、不正行為の防止は科学者のコミュニティが社会に負っている「負託自治」の倫理的核心をなす責務であることが明記されています。

日本第四紀学会はこうした現在の科学研究をめぐる全体の動向をふまえ、本学会にふさわしい倫理憲章を備えることが、今後の活動のために必要不可欠と判断いたしました。

### 経過：

- ・2004年7月 評議員5名による「倫理憲章策定委員会（仮称）設置」の提案が会長宛に提出される。
- ・ 8月 評議員会において委員会の設置が承認される。
- ・2005年1月 幹事会で策定委員会の規約と人的構成承認。
- ・ 2月 委員候補4名で憲章に盛り込むべき内容を検討。
- ・ 2月20日 評議員会（千葉中央博）で規約と委員承認（上杉 陽[委員長]、坂上寛一、真野勝友、小野 昭）
- ・ 4月30日 倫理憲章（案）を策定委員会委員長名で幹事会に答申。検討の結果一部案文を修正して幹事会原案を確定。

### 会員のみなさまへの具体的お願い：

倫理憲章は学会の基本理念をうたいあげ簡潔な形にしてあります。他の関連学協会も同様であります。別掲の幹事会原案をご検討頂き、2005年6月30日（木）までに、幹事会庶務委員（久保純子）宛てにご意見をお寄せください。

2005年5月9日

日本第四紀学会会長 熊井久雄  
日本第四紀学会幹事会

## 日本第四紀学会倫理憲章(案)

### 前文

本会は、人類を産み育んできた地球環境の変動を、人類が地球に与えてきた様々な影響とともに科学的に調査研究し、成果を広く社会に普及する事を目的とする。また、内外の関連学協会と協調し、人類社会の持続的発展と地球環境及び生物多様性の保全に貢献することを希求する。

### 1. 科学者・教育者としての倫理

会員は、専門知識と技術の向上をめざして自己研鑽を図るとともに、本学会を構成する諸分野の相互理解にも努める。調査研究および教育普及にあたっては、基本的人権の尊重の上にて、法を遵守し社会的良識に従って行動する。

### 2. 知的交流の促進

会員は、得られた成果が広く吟味・検証されるべく努め、専門知識と技術を活用して他分野との交流を促進する。また、調査研究の公表にあたっては先行研究と他者の業績を正當に評価する。

### 3. 人類社会への責務・地球環境への責務

会員は専門的な知識や立場を活かし、地球環境の過去・現在・未来について、適切な情報提供に努める。自らの調査研究の実施にあたっては、環境への影響を適切に評価し、影響を最小限に押さえるべく努め、地域の人々の信頼と尊敬を獲得するべく努力する。

### 4. 次世代への責務

会員は、次世代を担う人材の育成に努めるとともに、調査・研究の成果物、標本、試資料、露頭、遺跡、景観など、諸遺産の保護・保全に努める。

日本第四紀学会会則改定 2005年 月 日、総会で一部改正

### 第2章 会員

第5条 本会は第四紀学に関心をもつ会員で組織する。

会員は会則と倫理憲章を遵守する義務を負う。会員は会誌の配布を受け、第3条に規定した事業に参加する権利を有する。



## 独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム2005

### 『地球とくらしの環境学 あなたが知りたいこと、私たちが お伝えしたいこと』

国立環境研究所では、毎年6月の環境月間にあわせて、公開シンポジウムを開催しています。今年は、環境問題に関心を持つ市民の皆さんが日頃の生活の中で抱いている“？”にお答えするべく、私たちが進めている地球温暖化問題、循環型社会への課題、化学物質の影響に関する最新の環境研究の成果(難しいかもしれない最先端の成果、HOTな話題、ちょっと怖い?話などなど)をできるだけわかりやすくお伝えしたいと思います。

また、公開シンポジウムはこれまで平日に開催してまいりましたが、さらに多くの皆様にご参加いただきたく、今回は日曜日(東京会場)と土曜日(京都会場)に開催させていただくことといたしました。この機会にぜひ私たちのメッセージをお聞きいただければ幸いです。

#### 1. メインテーマ:「地球とくらしの環境学

あなたが知りたいこと、私たちがお伝えしたいこと」

2. 内容: 私たちのくらしに密接に係る環境問題についての最新情報や研究成果の講演4件(地球温暖化2件、循環型社会、化学物質の影響の各1件)と、研究者自らがパネルを用いて直接、対話しながらご説明するポスターセッション25件を予定(参加は無料です)

#### 3. 日時・会場

##### (1) 東京会場

開催日時: 平成17年6月12日(日) 12:00 ~ 17:00

開催場所: メルパルクホール(港区芝公園2-5-20)

定員: 約1,200名

アクセス: JR浜松町駅より徒歩10分 / 都営三田線芝公園駅より徒歩2分 / 都営浅草線・大江戸線大門駅より徒歩4分

##### (2) 京都会場

開催日時: 平成17年6月25日(土) 12:00 ~ 17:00

開催場所: 京都市アバンティホール(京都市南区東九条西山王町31番地 アバンティ9階)

定員: 約300名

アクセス: JR・近鉄京都駅(八条口)より地下道南進すぐ

公開シンポジウムに関する情報は随時次のwebページに掲載いたします。

<http://www.nies.go.jp/event/index.html>

参加を御希望の方は、参加希望会場(東京・京都)、住所、氏名、年齢、職業、連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレス等)を明記の上、下記あてに、E-mail、FAXまたは葉書にてお申し込みください。折り返し、参加票をお届けします。参加費は無料です。

なお、申込み多数の場合、会場定員に達した時点で申込みを締め切らせていただきますので、あらかじめ御了承ください。

国立環境研究所公開シンポジウム2005 登録事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋1-7-2 虎ノ門高木ビル

(株)インターグループ内 (担当: 山口・林田)

TEL: 03-3597-1129, FAX: 03-3597-1097

E-mail: nies2005@intergroup.co.jp

## 古地磁気・岩石磁気サマースクールのご案内

日時：2005年9月1日（木）午後～9月3日（土）午前（2泊3日）

場所：産業技術総合研究所第7事業所（旧地質調査所）第2会議室

宿泊：筑波研修センター

主催：地球電磁気・地球惑星圏学会 古地磁気・岩石磁気分科会

後援：産業技術総合研究所 地質調査総合センター

例年開催しているサマースクールですが、今回は、古地磁気研究の基礎から先端さらには応用についてのレクチャーを主体として、これから古地磁気学を学ぼうという学生・院生、古地磁気学の最近の進展について知りたいという関連分野の研究者の役に立つことを目的とします。多数のご参加を期待します。

### レクチャー予定

#### 1. 役に立つ古地磁気・岩石磁気学

古地磁気層序年代法：兵頭政幸（神戸大）

古地磁気学を応用したテクトニクスの研究法：星 博幸（愛知教育大）

環境磁気学：林田 明（同志社大）

#### 2. 地磁気・古地磁気研究の最先端入門

地球・惑星ダイナモ：高橋 太（航空宇宙研究開発機構）

古地磁気強度：山本裕二（産業技術総合研究所）他

コア・マントルダイナミクス（講師未定）

ホットスポットの運動、極移動（講師未定）

生物磁気（講師未定）

1日目夕方（～夜）は、交流を深めることを目的として参加者全員によるポスターセッションを予定しています。お弁当と飲み物を用意します。2日目夜には懇親会を予定しています。

スクールの詳細や参加申し込み（6月中頃開始予定）については、Webをご覧ください。

<http://unit.aist.go.jp/igg/rg/pgd-rg/pmag2005/pmag2005.html>

### 参加費（予定、目安）

宿泊（2泊3日朝食込） 学生8,000円、一般15,000円

宿泊なし 学生2,000円、一般3,000円

いずれも、懇親会費、一日目夕食弁当を含みます。

お問い合わせはメール（[pmag2005@m.aist.go.jp](mailto:pmag2005@m.aist.go.jp)）をお願いします。

開催責任者：山崎俊嗣（産業技術総合研究所）

## 世界考古学会議中間会議大阪大会のお知らせ

世界考古学会議中間会議大阪大会が2006年1月12日（木） - 15日（日）に、大阪歴史博物館で開催されます。

世界考古学会議（The World Archaeological Congress）は1987年に設立された世界最大規模の考古学の国際フォーラムです。4年に一度開催される本大会には世界各地から数多くの研究者が参加し、研究報告や意見交換が行われ、その成果は多数の書物として結実しています。本大会の間には数回の中間会議が開催されますが、アジアの開催は今回が初めてで、海外から100名の参加者が見込まれています。

大阪大会では、「共生の考古学 - 過去との対話、遺産の継承 - 」というテーマを掲げ、研究発表、シンポジウム、関連エクスカージョンが実施されます。詳しくは、世界考古学会議中間会議大阪大会のホームページをご覧ください [ <http://wacosaka.jp> ]

岡村勝行（世界考古学会議中間会議大阪大会事務局）

## 「第9回尾瀬賞」募集案内

財団法人尾瀬保護財団 (<http://www.oze-fund.or.jp/>) が「第9回尾瀬賞」を募集しています。募集要項の概略は以下のとおりです。

### 1. 目的

「湿原」に関する学術研究を顕彰することにより、この分野の学問的・学術的研究の伸展を図るとともに、環境保護に関する関心を高めることを目的とする。

### 2. 賞の内容

#### (1) 候補者の対象・資格

- ・個人を対象とする。なお、グループ研究による業績の場合は代表者による申請とする。
- ・湿原に関する研究において、学術的および湿原保全の見地から優れた業績を上げ、今後の研究の深化が期待される人。
- ・研究対象は、「泥炭を有する湿原及びそこを生活の場とする生物」とする。なお、研究対象は尾瀬ヶ原に限らず日本及び国外の様々なタイプの湿原とする。
- ・応募者の年齢は、平成17年4月1日現在において、原則として50歳未満。

#### (2) 受賞

- ・受賞者は2名以内。
- ・1名につき賞状および賞金100万円を贈呈。
- ・適任者がいない場合には受賞者なしとすることもある。

### 3. 募集

#### (1) 募集期間

平成17年4月1日～9月20日(当日の消印有効)

#### (2) 応募方法

- ・以下の5点をそろえて応募。記載は日本語または英語に限る。なお、自薦による応募を基本とする。

「第9回尾瀬賞」応募用紙

(<http://www.oze-fnd.or.jp/> よりダウンロード可)

尾瀬賞応募業績調書

主要業績調書

業績一覧

に挙げた論文、著書の全文

- ・必要があれば別に資料を求めることもある。
- ・応募は郵送によります。宅配便での郵送も可。
- ・原則として、応募は当該年度のみ有効。
- ・今回の応募で受賞外となった人の次年度以降の再応募を妨げない。

### 4. 選考

受賞者は、応募のあった候補者の中から尾瀬賞選考委員会が選考し、尾瀬賞運営委員会の審査を経て、平成18年3月に尾瀬保護財団理事長が決定する。

### 5. 応募用紙の送付先および問合せ先

財団法人尾瀬保護財団事務局「尾瀬賞」係

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1-1 群馬県庁内

電話：027-220-4431 ファックス：027-220-4421

Eメール：info@oze-fnd.or.jp

**“Stratigraphy, paleontology and  
paleoenvironment of Pliocene-Pleistocene of  
Transbaikalia and interregional correlations”**

International Symposium

First Circular

28 August - 03 September 2006, Ulan-Ude



Conference' Organizers:

Geological Institute Siberian Branch of RAS (GI SB RAS),  
INQUA Stratigraphy Commission  
INQUA Sub-commission on Asian Quaternary Stratigraphy  
Quaternary Commission of RAS  
Department of Natural Resources of Republic Buryatia

Symposium Chair: Prof. A. Mironov (Director of GI SB RAS)

Secretary: Dr. N. Alexeeva (Russia)

Organizing committee:

International: Prof. Brad Pillans (Australia)

Prof. H. Kumai (Japan)

Prof. T. van Kolfschoten (Netherland)

Prof. M. Coltorti (Italy)

Dr. M. Mitamura (Japan)

Prof. Houyuan Lu (China)

Prof. Ph. Gibbard (UK)

Prof. N. Rutter (Canada)

Prof. Yu. Lavrushin (Russia)

Prof. L. Marks (Poland)

Local: Dr. M. Erbajeva

Dr. I. Rezanov

Dr. E. Bezrukova

Dr. G. Tat'kov

Dr. A. Tesakov

Dr. M. Sotnikova

Dr. N. Karmanova

Dr. F. Khenzykhenova

Scientific committee: Dr. A. Dodonov (Russia)

Prof. W. von Koenigswald (Germany)

Ph.Dr. Changzhu Jin (China)

Prof. Liping Zhou (China)

Prof. N. Catto (Canada)

Dr. A. Agadjanian (Russia)

Prof. Y. Kawamura (Japan)

Dr. R.-D. Kahlke (Germany)

Prof. A. Nadachowski (Poland)

Dr. L. Rook (Italy)

Dr. M. Sotnikova (Russia)

Dr. V. Vyrkin (Russia)

Scientific program:

The scientific program will include opening ceremony, symposium session and poster session. The main discussed topics are:

- Stratigraphy and correlations of global biotic and abiotic events and signals with the emphasis on mid-Eurasian geological record;
- Pliocene-Pleistocene biostratigraphy, interregional correlation;
- Paleontology and biochronology of fossil mammals and plants;
- Pleistocene Environmental Dynamics of Eurasia in context of global change.

Location: Ulan-Ude, Transbaikala, south Siberia, Russia.

Transbaikalia is a part of the Central Asian mountain belt and of the Baikal rift zone, located between 51-56°N and 104-118°E. During the Late Cenozoic this area experienced a complex geological evolution. Many specific features of the Late Cenozoic climates, sediments and environments are attributable to the tectonic process. Physiogeographically, it is characterized by a series of major ranges separated by deep intermontane depressions; elevations of the ranges increase from 1000 m in the south to 2500 m in the north. The region is located on the boundary of the European-Siberian and Central-Asian zoogeographical provinces and peculiar animal and plant communities characterize it. The regional geological record permits insights into details of formation of the Pliocene boreal fauna and the turnover at the Pliocene-Pleistocene boundary. In the past the region constituted a very important cross-road of faunal exchanges between Asia and Europe, as well as Asia and North America.

Preliminary Program:

- Monday: Arrival of participants Registration, (sightseeing) Opening ceremony and evening party
- Tuesday: Presentations (oral, posters)
- Wednesday: Presentations (oral, posters) Conference dinner
- Thursday: Excursion: Krivoyarskaya Formation (stratotype) Tologoi key section
- Friday: Excursion: Itantsa Key Section Late Pleistocene Selenga River Terraces (night stay)
- Saturday: Excursion to the Lake Baikal terraces, Closing ceremony, Arrival to Ulan-Ude
- Sunday: Departure of participants

**REGISTRATION FORM OF PARTICIPANTS**

To be filled and submitted to the Organizing Committee by June 30, 2005

Surname \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_  
 Scientific degree, title \_\_\_\_\_ Affiliation \_\_\_\_\_  
 Organization \_\_\_\_\_

Address for correspondence \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

Phone: \_\_\_\_\_ Fax: \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

Type of presentation and form of participation: . oral . poster . excursion

TITLE OF PRESENTATION (in English): \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

Authors \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

Hotel: Single Room \_\_\_\_\_ Double Room \_\_\_\_\_ 1 place in Double Room \_\_\_\_\_

Date \_\_\_\_\_ Signature \_\_\_\_\_

Important information

Fees:

Registration fee of 260EUR includes admission to the sessions, volume of abstracts, guidebook, meals during the conference, conference dinner, coffee/tea breaks and transportation for 3 days excursions and one night accommodation during excursion.

Accommodation:

The conference sessions will be conducted in Ulan-Ude.

Hotel costs:

Single Room 26EUR

Double Room 37EUR

Important dates:

June 30, 2005 registration form and application

October 31, 2005 submission of abstracts

January 15, 2006 information on abstract acceptance, Second Circular

May 31, 2006 Third Circular

August 26-27 arrival of participants and their registration

THE WORKING LANGUAGE IS ENGLISH

Abstracts:

TITLE OF PRESENTATION (Time New Roman, Bold, small capitals Centered, 12)

A.B. IVANOV<sup>1</sup>, B.A. PETROV<sup>2</sup>, (TNR, Norm, small capitals Centered, 12)

<sup>1</sup>Geological Inst. SB RAS, 670047 Ulan-Ude, ivan@bsc.buryatia.ru

<sup>2</sup>UIGGM SB RAS, 630090 Novosibirsk (Time New Roman, Italic, Centered,12)

Please submit your abstract digitally to the Organizing Committee not later than October 31, 2005. Attachment, MS Word compatible .doc, .rtf; one page in Format A4, figures, references included (if necessary). Time New Roman 12, single-spaced, 1cm indentation, 2,5cm all fields. Figures and tables are designed in brackets, indicate references – in square brackets. Figures captions will be set below figures (TNR, 12). References are given in alphabetical order (TNR, 12) and separated from the text by 1 line.

Address for correspondence and contact data:  
Nadja Alexeeva, Secretary,  
Geological Institute SB RAS,  
6a Sahyanova str.,  
Ulan-Ude, 670047  
Russia.

Phone: +7(3012) 43-39-55, 43-30-13;  
Fax: +7(3012) 43-30-24;  
E-mail: baikal2006@quaternary.net.ru  
Internet address:  
<http://www.quaternary.net.ru/events/ulanude2006>

## 日本第四紀学会会告

### 旧石器捏造資料に関連する日本第四紀学会刊行物の調査結果について

2000年11月5日に暴露された前・中期旧石器の遺跡・遺物の捏造事件は、考古学界はむろんのこと、関連の国内外の学界、教育界、教科書業界、埋蔵文化財行政をはじめ、広く社会に衝撃をあたえたことは記憶にまだ鮮明であります。本会においても2002年8月、信州大学の大会の総会において、日本第四紀学会が関係した「旧石器捏造事件関連資料」を調査する必要があることが決定されました。

具体的には機関誌『第四紀研究』をはじめ、本学会が関連した出版物に、捏造された遺跡や資料が引用・利用されているかどうか、またあるとすればどのように扱われているかを精査し、学会としての責任を明確にすることです。日本考古学協会や関連の自治体による検証作業が進捗する中で、これと平行して作業をすすめましたが、2003年5月には日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会編の詳細な検証報告書(『前・中期旧石器問題の検証』総625頁)が刊行されました。

諸般の事情で本作業は著しく遅滞いたしました。日本考古学協会の検証結果も十分に踏まえ、昨年末にこれを終了しました。ここに機関誌と第四紀通信の双方に結果を掲載し、会員の皆様に報告する次第であります。なお、調査の作業には、本会会員の小野 昭、佐藤宏之、諏訪順、伊藤 健、鈴木毅彦の5名がこれに当たりました。

日本第四紀学会 会長 熊井久雄  
2005年3月29日

#### 日本第四紀学会刊行物に含まれる旧石器捏造関連資料の取り扱いについて

以下に掲げる日本第四紀学会ならびに関連の刊行物は、日本考古学協会前・中期旧石器問題調査研究特別委員会や関係自治体等の検証の結果、捏造と判断された事実や資料に基づくもの、言及されたもの、関連資料としてふれたものを含み、適正でないと考えます。日本第四紀学会は、これらの資料を旧石器時代研究の資料として利用してはならないと判断します。将来、捏造事件自体を科学史の研究対象として扱う場合もありうることに鑑み、引用不可とすることは避けませんが、誤りや不適当と考えられる記述を含みますので注意されるよう願います。

調査の対象期間：1978年1月から2001年12月まで

調査対象：機関誌他 「第四紀研究」、「講演要旨集」、「第四紀通信」

単行書 「日本第四紀地図」、「図解・日本の人類遺跡」、「第四紀露頭集 - 日本のテフラ」

なお、関連の単行書はすべて調査しましたが、以下の著作には捏造関連資料の該当はなかったことを明記します。「百年・千年・万年後の日本の自然と人類」1987、「日本列島の旧石器動物群をめぐる諸問題」日本第四紀学会ミニシンポジウム2000、「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」2000、「第四紀の自然と人間」(普及講演会資料)2001

関連度合いの評価：A,B,Cの3区分で示した。A：捏造資料ないし遺跡の内容に直接言及、B：密接に関連してなされた分析、C：関連してなされた分析。単行書においてもこれと同様A,B,Cで評価をおこないましたが、著作の性格の違いもあるので、表現はそれに合わせ若干変えてあります。

以下、「単行書」、「第四紀通信」、「第四紀研究」、「講演要旨集」の順に掲載します。

#### 単行書

日本第四紀地図(日本第四紀学会編)東京大学出版会1987

II先史遺跡・環境図(1葉)、「A最終間氷期」の地図に座散乱木、馬場壇A、中峯C、志

引, 山田上ノ台の地点.

解説書 p.94 左最下行, 右1行. 関連度 B

p.95 図 20.1 馬場壇 A20 層上面の遺物分布.

p.96 図 20.2 馬場壇 A 編年.

\* A: 密接かつ直接内容に深く関わって言及, B: 関連して紹介解説, C: 一部関連

図解・日本の人類遺跡(日本第四紀学会・小野 昭・春成秀爾・小田静夫編)東京大学出版会 1992

p.3 図の最上段左上の斜軸尖頭器

p.4 1 図 旧石器時代の編年 馬場壇 A20 層 座散乱木 13 層

p.8 1 時代概説 左 24-26 行 関連度 C

p.12 2 道具の組み合わせ a 石刃技法成立以前 右 11-21 行 関連度 B

p.13 図 遺跡 1-4・6

p.15 図 2 馬場壇 A 遺跡の石器群の変遷と関連遺跡

p.41 図 5 薬菜山麓遺跡群における遺跡間の石器接合関係

\* A: 密接かつ直接内容に深く関わって言及, B: 関連して紹介解説, C: 一部関連

第四紀露頭集 日本のテフラ 第四紀露頭集編集委員会編 日本第四紀学会刊 1996

日本列島最古?の石器文化 宮城県築館町高森遺跡 . 早田 勉 P157 関連度 B

日本における前期旧石器文化の確認 宮城県座散乱木遺跡・馬場壇 A 遺跡 . 早田 勉 P158 関連度 A

新しく発見された単成火山 宮城県安達火山 . 早田 勉 P159 関連度 C

広域テフラと一緒に発見された前期旧石器 福島市竹ノ森遺跡 . 早田 勉 P164 関連度 B

\* A: 直接内容に言及しているもの, B: 密接に関わった分析にかかわるもの, C: 直接ではないが関連して言及するもの

第四紀通信 (Vol.1 No.1 1994~Vol.8 No.6 2001)

	発行年	号数	表題	執筆者	ページ	備考	
参考	1997年	Vol.4 No.5	関連学会・機関からのお知らせ 地底の森 ミュージアム開館のご案内		p.7	開館の案内	
参考	1998年	Vol.5 No.1	写真説明 仙台市富沢遺跡保存館-地底の森 ミュージアム		p.1	展示の写真	
参考	1998年	Vol.5 No.1	表紙写真 仙台市富沢遺跡保存館・地底の森		p.15	表紙写真の説明	
	1998年	Vol.5 No.5	国内研究集会案内 上高森遺跡と周辺地域のテ フラ巡検		p.8	巡検の案内	関連度 C
	1998年	Vol.5 No.6	上高森遺跡と周辺地域のテフラ-巡検報告-	塚本すみ子	p.4	遺跡テフラ見学の報 告	関連度 C
	2000年	Vol.7 No.3	前期旧石器時代, 小鹿坂遺跡 (埼玉県秩父市) の発掘風景	撮影: 鈴木毅彦	p.1	遺跡紹介	関連度 C



『第四紀研究』

発行年月	巻号	表題	執筆者	頁・行	関連部分	備考	評価
1989.11	28,4	テフクロノロジによる前期旧石器時代遺物包含層の検討-仙台平野北部の遺跡を中心に	早田 勉	269-282	一部	馬場壇Aの年代、座散乱木の包含層の批判的検討	B
		宮城県の旧石器時代前・中期	鎌田俊昭・梶原洋・山田晃弘	283-292	全部		A
		仙台市富沢遺跡(第30次調査の概要)	仙台市教育委員会	293-301	一部	捏造石器(25,26層)に言及	A
		中～後期更新世における古植物相-東北地方を中心として-	鈴木敬治・竹内貞子	303-316	一部	馬場壇・青葉山・富沢の古植物相に言及	C
		考古学資料に残存する脂質-馬場壇A遺跡の石器に残存する脂質の分析(講演要旨)	中野益男	337-340	全部		B
		東アジアにおける中・後期更新世の人類と環境:総合討論		341-347	一部	前中期に言及した討論	B
1990.7	29,2	野尻湖立ヶ鼻遺跡第10次発掘出土の骨器	野尻湖発掘調査団 人類考古グループ	89-103	一部	比較資料としてTNT471-Bを引用(100頁)	C
1991.6	30,3	Quaternary Paleomagnetic Studies in Japan.	Kimio Hirooka	151-160	一部	馬場壇Aに言及(p.158)	C
1991.12	30,5	東北地方の第四紀テフラ研究	早田勉・八木浩司	369-378	一部	3.前期旧石器時代の研究(p.375-377)	C
1992,10	31,4	山形盆地の丘陵上で発見された円盤形石核について	阿部祥人	255-257	一部	江合川12層出土資料と比較	C
1999,6	38,3	Palaeolithic Cultures and Pleistocene Hominids in the Japanese Islands: An Overview	Akira Ono, Shizuo Oda, Shuji Matsuura	177-183	一部	II Early and Middle Palaeolithic	B

評価 A: 捏造資料ないし遺跡の内容に直接言及 B: 密接に関連してなされた分析 C: 関連してなされた分析

『日本第四紀学会講演要旨集』

発行年月	巻号	表題	執筆者	頁・行	関連部分	備考	評価
1985.8	15	「中部地方の旧石器文化の変遷」	中村由克	29~32	一部	座散乱木・馬場壇Aに言及	B
1986.8	16	序言「日本第四紀地図」の作成	貝塚英平・垣見俊弘	5~6	一部	中期旧石器時代 (p6)	C
		東アジアから日本列島への人類の拡散について	加藤晋平	31~32	一部	座散乱木・馬場壇A遺跡、江合川流域の石器群に言及	B
		宮城県北部テフラと“前期旧石器時代”の遺物包含層	早田勉・新井房夫・八木浩司	36~37	一部	座散乱木・馬場壇A遺跡の遺物包含層について検討	B
1988.8	18	「東アジアの中・後期更新世の人類と環境」について	中川久夫	1~3	一部	宮城県の「旧石器」に言及	C
		野尻湖立が鼻遺跡の旧石器文化と古環境	中村由克・野尻湖発掘調査団	10~17	一部	骨製クリーヴァーの比較資料としてTN471-Bと座散乱木13層資料に言及	C
		旧石器時代の指標テフラ	早田 勉	14~17	一部	馬場壇、座散乱木の石器包含層に言及	B
		宮城県の旧石器時代前・中期	鎌田俊明・梶原洋・山田晃弘	18~21	全部		A
		中~後期更新世における古植物相	竹内貞子・鈴木敬治	24~27	一部	馬場壇、青葉山の古植生に言及	C
		考古学資料に残存する脂質一馬場壇A遺跡の石器に残存する脂肪の分析	中野益男	32~37	全部		B
		遺跡立地と地形環境	羽島謙三	40~41	一部	TN471-Bの地形に言及	C
		旧石器時代の古地磁気層序	広岡公夫・北淳一・湯田紀・寺崎尚子	42~45	一部	馬場壇の古地磁気年代に言及	C
		宮城県下の旧石器時代遺跡の熱ルミネッセンス年代	市川米太・平賀章三	46~47	全部	宮城県下の「旧石器」の年代に言及	B
		東北日本、第四紀テフラの重鉱物の重要性	蟹沢忠史	48~49	一部	馬場壇のテフラに言及	C
		宮城県北部の中一後期更新世テフラのフィッシュン・トラック年代	興水達司	54~57	一部	馬場壇、座散乱木のテフラのフィッシュン・トラック年代に言及	C
		馬場壇A遺跡の第20層上面における残留磁気測定	真鍋健一	58~59	全部		B
		累積テフラ層の植物珪酸体分析	佐瀬 隆	70~71	一部	馬場壇のテフラ中の珪酸体について言及	C
		宮城県の前期旧石器遺跡の土壌	山田一郎・庄子貞雄	72~73	一部		B
1990.8	20	東北の第四紀テフラ	早田勉・八木浩司	22~25	一部	前期旧石器の編年について言及	B
1993.8	23	テフロクロノロジーによる宮城県築館町高森遺跡の層位学的研究	早田 勉	112~113	全部	高森遺跡の層位的位置付けに言及	B
		高森遺跡で発見された更新世中期の地磁気逆転	広岡公夫・森定向・常川ゆかり・宮澤誠・山田晃弘	114~115	一部	高森遺跡D地点で行なった地磁気逆転イベントの年代を検討	C
1996.8	26	東日本における前期・中期旧石器時代遺跡の分布	中村由克	132~133	全部	上高森など捏造遺跡全般に言及	A
2000.8.1	30	埼玉県秩父盆地に分布するテフラの層序・対比・年代に関する再検討と考古編年上の意義	栗島義明・鈴木毅彦	205 (右)	一部	小鹿坂石器出土層準の年代に言及	B

## 日本第四紀学会テフラ・火山研究委員会企画 シンポジウム「関東平野の形成史 最近のテフラ・地下地質・テクトニクス研究に基づくその探究」開催報告

鈴木毅彦（首都大学東京 都市環境学部）

2004年度の日本第四紀学会テフラ・火山研究委員会の活動として、年度末にあたる3月中旬に一日間のシンポジウムと二日間にわたる野外集会を企画・開催した。この企画は、前・中期更新世を中心に最近10年間に急速に研究が進んだ関東平野のテフラ研究に焦点をあて、これまでの研究成果のまとめと関連分野も含めた今後の研究課題について討論することを目的としたものである。具体的には関東平野西縁・多摩丘陵・房総半島・銚子地域、そしてそれらに囲まれる地域の地下地質を対象に、テフラ・層序・テクトニクス・応用地質など各分野から多角的に展望することである。野外集会については参加者による報告が第四紀通信本号に掲載されているのでそれを参照して頂くこととして、ここではシンポジウムに関して報告する。

標記のように題された本シンポジウムは、地質科学総合研究連絡委員会第四紀学専門委員会（日本学術会議）との共同主催として企画され、2005年3月13日（日）に明治大学駿河台キャンパスにおいて開催された。会場である完成して間もないアカデミーコモンの9階309A教室は少なくとも75名以上の参加者により埋めつくされた。シンポジウムの構成は、午前の部がテフロクロノロジーを中心とした講演、午後の部は関東平野に関連した諸テーマの講演からなる。午前の部では、趣旨説明に続き、中里裕臣会員他により、ボーリングにより得られた関東平野中・東部の下総層群相当層中のテフラと多摩ローム層中のテフラの対比と、それに基づく関東平野の中期更新世以降の隆起・沈降の復元に関する講演がなされた。藤岡導明会員他の講演では、横浜、房総、銚子の各地域の上総層群下部中のテフラ対比が示された。鈴木毅彦会員他の講演では、武蔵野台地の地下と房総半島の上総層群中のテフラを対比し、その高度分布から関東平野の前期更新世以降の隆起・沈降に関する考察がなされた。正田浩司会員他の発表では、関東平野西縁と中部地方の中部鮮新統にはさまれるテフラの広域対比が示された。里口保文会員の発表では、三浦層群・上総層群の年代観から黒滝不整合の時代を検討し、房総半島と日本各地の鮮新統にはさまれるテフラの広域対比が示された。いずれの講演内容もこの1-2年以内に論文化されたものや現在投稿中の論文に基づくものであり、一部未公表データも含まれている。当該分野の最先端の研究結果が示され



明治大学駿河台キャンパスで開催されたシンポジウムの様子（下釜耕太撮影）

たものと位置づけて良いであろう。

午後の部はテフラ研究から離れ、関東平野を様々な観点から捉える講演からなる。前半はテクトニクスに関連しており、産総研の高橋雅紀氏による講演では中新世以降のプレート運動の変遷と東北日本および関東平野を含む中部日本のテクトニクスについての新たなモデルが提出された。それに続く山崎晴雄会員の講演では、off-fault seismologyの強調と、立川断層や安政江戸地震に関する最近の話題が紹介された。杉原重夫会員の講演では、流紋岩質テフラと黒曜石の産地同定にはXRFによる主成分・微量元素分析が有効であることが示された。午後の後半は国や自治体の研究機関がとり組む関東平野に関する各種プロジェクトの紹介からなり、東京都土木技術研究所の中山俊雄会員他の講演では、ボーリングによる沖積層や更新統に関する話題、反射法地震探査による立川断層を含めた東京の地下地質構造の最新の研究成果が紹介された。産総研の水野清秀会員の講演では、深谷断層周辺の地下地質の紹介と、中期更新世以降のテフラの広域対比が示された。その後、全体の発表に関して総合討論が行われ、最後に町田洋会員より日本学術会議第四紀学専門委員会の立場から、世界の第四紀研究の動向と今後の日本のテフラ研究の課題が示された。

以上のように、今回のシンポジウムでは、従来の当委員会主催シンポジウムで中心的に取りあげられたテフラ研究にかかわるテーマだけでなく、関東平野をキーワードにやや離れた隣接

分野のテーマも取りあげられた。このような構成とした背景には、1)関東は必ずしも日本の第四紀編年の標準地域であり続けたのではない、2)とくに第四紀前半については房総を除き研究が遅れていた、3)一方、ごく最近のテフラ研究はその問題をクリアしつつある、という状況がある。このような時期、新たに解明されつつあるテフラの知見を隣接分野に応用すると何が見えてくるのか。とりわけ関東平野のテクトニクスに関しては古くから多くの見解がある。それに関して新知見を活かして現在の観点から議論すると関東のテクトニクスはどう解釈されるか。シンポジウムのねらいはこの様な問題を議論することにもある。また、テクトニクスから派生する問題として、活断層評価、直下型地震の実体解明、地下構造の解明など地震災害の軽減につながる研究テーマがある。これらについて地学研究者は純理学的な観点とは別に社会的貢献が必要だろうし、国・地方自治体の研究機

関として取り組む必要がある。関東平野をキーワードにこれらに取り組む各立場の研究者が新しい知見を共有することに意味はあろう。

結果として関東平野をキーワードに最新のテフラ研究の情報交換がなされたこと、テフラ研究を取りまく各テーマの研究者が一堂に会したことに意義があったと感じている。一方、このような趣旨であったが為に、諸刃の剣として、様々な時代・テーマが設定されていたためあまりに欠く傾向があったかもしれない。このため総合討論での議論のテーマが絞りきれず発散傾向にあった。このような点もあろうが、各々の参加者に対し今後の関東平野研究に関するヒントが与えられたと考えたい。最後に年度末の忙しい時期も関わらずご講演いただいた各発表者、そして会の進行を支えていただきました明治大学・東京都立大学の関係者に感謝する次第である。

## 日本第四紀学会テフラ・火山研究委員会2004年度年企画 野外集会「関東平野の形成史 最近のテフラ・地下地質・テクトニクス研究に基づくその探究」参加報告

中村洋介(立正大学地球環境科学部)

日本第四紀学会テフラ・火山研究委員会主催の標記野外集会が、2005年3月14-15日の1泊2日の日程で開催された。本野外集会は、隆起に伴い地表に露出した前弧海盆の堆積物の観察を通して関東平野の形成について討論を行うことを目的として実施された。今回の2日間の野外集会では、主としてこれらの堆積物の時間軸の役割を果たす多摩丘陵と房総半島に分布するテフラの露頭の見学を行った。

案内者は鈴木毅彦氏(東京都立大学)、正田浩司氏(埼玉県立所沢高校)、里口保文氏(滋賀県立琵琶湖博物館)、藤岡導明氏(千葉大学)、中里裕臣氏(農業工学研究所)の5名であり、案内者を含めて35名が参加した。両日ともに天候に恵まれ、特に2日目は春のうらかな陽気の下での集会となった。

1日目は青梅線河辺駅に午前8時10分に集合し、貸切りバスに乗って出発。Stop1.1(青梅市千ヶ瀬)では正田・鈴木両氏の説明のもと、CGS-1テフラならびにCGS-2テフラの観察を行った。CGS1テフラ、CGS2テフラはそれぞれ2.9Maならびに2.6Maに堆積した鮮新世のテフラであるが、これらのテフラが北陸地方等に分布するテフラに対比されている事に関して参加者からは驚きの声が上がった。その後は多摩丘陵を南下して、Stop1.2(八王子市)では第2堀之内タフ(=Kd25)、Stop1.3(横浜市港北区綱島

東)では浅間タフ(=Kd18)、Stop1.4(横浜市栄区瀬上沢)ではSg1-4テフラ(=Kd24,25,38,39)の露頭をそれぞれ観察した。

案内者側は見学地点毎の観察時間をより多く確保するために見学箇所を少なめに設定されたそうである。しかしながら、各露頭において活発な議論が交わされたために(予想通りではあるものの)時間が押してしまい、宿泊場所である養老溪谷に到着したのは午後7時30分過ぎであった。到着直後に夕食会で参加者の懇親を



青梅市千ヶ瀬(多摩川河床)でのテフラ観察  
(下釜耕太撮影)

深め、その後は各部屋に移っての懇談・討論が夜遅くまで続いた。

2日目の午前中は養老溪谷(小又沢～栗又)において里口・鈴木両氏の説明のもと、6枚(Kd5A, Kd8, Kd16, Kd18, Kd24, ならびにKd25)のテフラを観察した。これらのテフラのうち、Kd18, Kd24, ならびにKd25テフラは、昨日多摩丘陵においても同じテフラを観察している。しかしながら、同じテフラであっても昨日多摩丘陵で観察したものと、層厚や見た目がまるで違うテフラが見られた。この理由は給源からの距離や堆積深度が異なるためと考えられているが、これらのテフラが層序、鉱物組成、屈折率、化学組成等の詳細な調査によって国内の複数の地点において精密に対比されていることに関して、近年におけるテフラ研究の進展を感じた。

その後は昼食を挟んでバスで銚子に移動し、銚子地域の犬吠層群(上総層群相当)に挟在するテフラを観察を行った。Stop2.2(銚子市三崎

町)ならびにStop2.3(飯岡町上永井)では犬吠層群小浜層中に含まれる4枚のテフラ(Ob1=Kd39, Ob2=Kd38, Ob4a=Kd25, Ob4b=Kd24)の観察を行った。Stop2.3の露頭では藤岡氏より、房総半島の上総層群では層厚1000m以上にも及ぶ時代(約1.65～0.9Maまでの75万年間)が、小浜層の堆積速度が非常に遅いためにここでは約40mに濃縮されていることについての説明があった。

昨日同様に各露頭での議論が白熱し、本日もあと2ヶ所の見学予定地があるにもかかわらずこの時点で時計は既に午後5時をまわっていた。断腸の思いでStop2.4(飯岡町行内; Yk9aテフラ)をスキップし、Stop2.5(海上町清滝; Ty1テフラ)の露頭を駆け足で見学してから、成田空港、東京駅を經由して新宿駅にて解散となった。入念な準備のもと、丸2日間に渡る充実した巡検を提供して下さった案内者のみなさまに末筆ながら改めて御礼申し上げます。

## 日本第四紀学会第1回選挙管理委員会議事録

日時：平成17年3月19日

場所：早稲田大学教育学部16号館5階512室

出席者：久保純子(庶務幹事)、植木岳雪、白井正明、大石雅之、及川輝樹、江口誠一、近藤 恵各委員、中川庸幸(日本第四紀学会事務局)

### 議事

#### 1. 概要説明

選挙管理委員会の仕事内容と大まかな日程について庶務幹事の久保より説明があった。

#### 2. 選挙管理委員会委員長の選出

植木岳雪委員長を選挙規定8条により、選出した。

#### 3. 選挙日程の決定

2005-2006年度の評議員および役員選挙の日程を以下のように決定した。

- 4月12日(火) 評議員選挙投票用紙発送
- 5月13日(金) 評議員選挙投票締切
- 5月28日(土) 第2回選挙管理委員会(評議員選挙開票、役員選挙の会告と投票用紙の作成)
- 5月30日(月) 評議員への委嘱状発送
- 6月8日(水) 役員選挙投票用紙発送
- 6月22日(水) 役員選挙投票締切
- 6月25日(土) 第3回選挙管理委員会(役員選挙開票、答申作成)
- 6月30日(木) 会長、副会長、会計監査、幹事への委嘱状発送

#### 4. 第2回・第3回選挙管理委員会について

次回以降の選挙管理委員会は、早稲田大学教育学部16号館5階512室で行う。開票作業時のアルバ

イトは首都大学東京およびお茶の水女子大学から2名ずつ、早稲田大学から若干名を雇うこととする。

#### 5. 被選挙権を有しない正会員のリスト作成

会則9条および10条により、被選挙権を有しない正会員を確認した。会長経験者は、熊井久雄、鎮西清高(以上、地質学)、連続5選評議員は、菊地隆男、増田富士雄(以上、地質学)、海津正倫、遠藤邦彦、太田陽子、山崎晴雄(以上、地理学)、真野勝友(古生物学)、鈴木三男(植物学)、小野 昭(考古学)の計11名である。

#### 6. 専門分野別被選挙人名簿の確認

専門分野別被選挙人名簿から、会長経験者および連続5選評議員を削除して、被選挙人名簿の原稿を作成した。

#### 7. 分野別評議員数の決定

2005年2月1日現在の選挙人名簿に基づき、専門分野別に会員数を算定した。地質学688、地理学468、古生物学117、動物学14、植物学42、土壌学36、人類学18、考古学199、地球物理学30、地球化学26、工学30である。専門分野別会員数に基づき、選挙規定第14条および16条により、分野別評議員数は、地質学9、地理学7、古生物学4、動物学2、植物学2、土壌学2、人類学2、考古学4、地球物理学2、地球化学2、工学2および共通分野5の計43名と決定した。

#### 8. 投票用紙と会告の作成

前回の評議員選挙の実施に関する会告をもとに原稿を作成した。また、学会のメーリングリストを通じて、投票の呼びかけを行うことにした。

#### 9. 次回

日時：5月28日(土)10時より

場所：早稲田大学教育学部16号館5階512室

## 2004年度第5回幹事会議事録

日時：2005年3月19日(土)14:00～16:50  
会場：早稲田大学教育学部16-512演習室にて  
出席者：熊井久雄(会長) 真野勝友(副会長) 山崎晴雄、小野 昭、池原 研、町田 洋(研連)、中川庸幸(春恒社)、久保純子(記録)

### ・報告事項

#### (庶務)

評議員会が2月20日に開催された。

会員消息12月・1月分：入会2名、退会11名、逝去退会1名(柴崎達雄旧評議員)

日本学会事務センター第2回債権者集会(3/7)は都合で欠席、「被害学会連絡協議会」の情報を今後流す予定。

選挙管理委員会(3月19日11時～13時開催)開催報告

#### (会計)

評議員会の会計報告議事録

#### (編集)

会誌編集状況(44巻2号、44巻3号) 投稿論文数減少、リジェクトも多数あり危機的状況。

#### (行事)

島根大会(8月26日～29日)の第1報が「通信」次号に掲載される。発表申し込み締め切りは6月10日。

#### (広報)

「第四紀通信」12-2(4月1日発行)の編集がほぼ完了(合同大会のプログラム待ち)。

#### (その他)

50周年記念事業実行委員会：50周年記念の予定出版、日本第四紀学会編『地球史の現代と近未来』(町田・岩田・小野責任編集者、東大出版会)目次案が示された。

学術会議報告(町田委員)：専門委員に鎮西会員が選ばれた。学術会議改組でUNESCOやIUGSへの支援も危ぶまれており、INQUAはもっとあぶない。

学会倫理憲章策定委員会(小野委員)：今後の予定として、原案作成後、幹事会、評議員会、総会で承認を受け、50周年を機にスタートさせたい。規約の一部変更が必要。

### ・審議事項

#### (庶務)

今後退職等を機に退会者が増えるが、雑誌なしの「通信会員」など何らかの手段を考えたい。

転載許可：第四紀研究19(3)桑原(1980)の図1ならびに29(4)吉田ほか(1990)の図7を「名古屋とその周辺の自然」CD(名古屋市千種区役所ちくさ自然発見事業実行委員会)へ転載許可。

個人情報保護法施行に伴う会員データ取り扱いの件：「通信」への掲載は本人の承諾が必要となる。入退会は氏名のみ、住所変更はのせない、所属変更のみ掲載する。

同じく個人情報保護法施行により、図書館など

「団体会員」へ個人情報を含む「通信」を配送するのはまずい、雑誌購読のみとすべきである。また、「団体会員」は契約期間も契約文書も個別に対応しているため事務局の負担が過剰であり、「購読」扱いに一本化すべきである。このため総会で会則変更(団体会員の廃止)を提案することとした。

科学技術振興機構による引用(1件あたり410円)を引き続き許可することとした。

#### (編集)

掲載論文減少について：審査基準をゆるめるわけにはいかない、発行日は守るべき。

会誌の電子化にむけて、現在編集幹事がPDFファイルを保管しているが、今後は事務局保管とする。PDF化に伴う経費を確認する。3月末の国立情報研究所J-STAGE説明会に出席することとした。

#### (渉外)

日本地球惑星科学連合の件：各学会から2名程度の委員候補者の「情報提供」を依頼されているが、第四紀学会の幹事程度の負担がある。このため渉外幹事を新たに1名加え、連合委員を担当する必要がある。ただし連合側は「推薦」ではなく「情報提供」を求めており、選出されるかどうか不明。

同上教育問題検討委員としては、引き続き中井仁会員に依頼する。国際委員会は奥村渉外幹事に依頼する。連合との連絡窓口も奥村渉外幹事に依頼。

#### (その他)

特別委員会の件：熊井会長より「博物館協議会(仮称)」について提案があり、会則第17条による特別委員会として「博物館連携委員会」を立ち上げる準備をすることとした。

旧石器捏造関連資料調査委員会(小野委員)：調査結果の公表について提案があり、「通信」ならびに会誌44-3に公表することとした。

50周年記念事業(山崎幹事長)：記念大会の時期は2006年8月上旬、総会会場は都立大あるいは都心部、都の施設、江戸博、他大学などをさがす。記念セレモニー、シンポジウム(学会のあゆみ、講演会)などをあわせておこなう。

国際会議は別建てで、各研究委員会はINQUA対応でもあるので協力していただく。

「第四紀研究」バックナンバーをPDF化し、CD-ROMを作成する。

学術会議の記念出版は「第四紀学会」の名前を入れる、2005年中に出版、2000円台を予定、学会で買い取り募金のお礼に使えないか、会員向け予約販売、会員割引などほしい、学会に印税は入らないが学会の出版助成がなくても何とかかなりそう等。

次回幹事会は4月30日(土)開催の予定。

## 2004年度第6回幹事会議事録

日時：2005年4月30日(土)14:00～17:00  
会場：早稲田大学教育学部16-512演習室にて  
出席者：熊井久雄(会長) 真野勝友(副会長) 山崎晴雄、松浦秀治、小野 昭、斎藤文紀、町田

洋(研連)、中川庸幸(春恒社)、久保純子(記録)

## 議事

### ・報告事項

#### (庶務)

会員消息 2005年2月～4月分：入会9、退会23、逝去退会：國分直一会員(2005.1.11逝去)

寄贈図書(2月～4月分)：6機関7件、他に書評依頼2件。

評議員選挙(会員に投票用紙を配付、5/13締切)、選挙管理会告訂正の件。

団体会員の廃止(購読へ変更)について(8月の総会に提案し、承認されれば廃止の案内を出す予定)

学会センター破産和解交渉委員会：和解交渉に関し250学会より回答があり、うち231学会が和解に応じるとの回答があった。

『図説日本の人類遺跡』転載許可の件は、引用元に交渉するよう回答した。

#### (会計)

山形大会の余剰金が陶野大会会長より返却されることとなった。

#### (編集)

会誌編集状況：44巻2号を刊行した。44巻3号は現在編集中。特集号(山形大会)は編集作業が遅れている。現代形態測定学について原稿依頼を出した。

電子ジャーナル化に関する現状報告：3月30日J-STAGEの説明会の報告。基本的には、J-STAGEを「第四紀研究」を電子ジャーナル化しての公開の場として利用できそうである。ただし、著作権委譲に対する対応が必要。また、創文印刷工業(株)に作業内容や費用に関する見積もりを依頼したところ、1号あたり19,000円(税別)との回答であった。

#### (行事)

島根大会の詳細プログラムの紹介。

#### (渉外)庶務幹事代読

地球惑星科学連合への人材情報提供の件：1)総務委員会等の委員として実質的に参加する人材(2名程度)については、新幹事改選までは奥村幹事、次期渉外幹事は2名とし、新幹事会で相談していただく。2)教育問題検討委員は加藤禎夫(埼玉県立小川高等学校)会員に引き続きお願いする。3)国際委員会：奥村渉外幹事、4)連絡窓口：奥村渉外幹事

#### (企画)庶務幹事代読

2月20日に千葉県立中央博物館で開催したシンポジウムの報告記事を「第四紀通信」第12巻第2号に掲載した。

5月29日(日)に予定している日本第四紀学会講習会の内容を、開催場所の大阪市立自然史博物館の樽野博幸氏と相談して決め、第四紀通信第12巻第2号に案内の記事を掲載した。

#### (その他)

研連報告(町田委員)：第19期は2005年9月で終了となる。その後IYPE(国際惑星地球年)関係の学会が動き出すかも知れない。地質学関係学会はシンポジウム等で必要性を訴えるべき。50周年記念出版準備状況(来年完成の予定)。

50周年記念事業実行委員会：企画幹事関係の博物館行事については、産総研の地質標本館、豊橋市自然史博物館の協力が得られることとなり、兵庫県人と自然の博物館と合わせて3か所で行えるという見通しが立った(庶務幹事代読)。記念CD作成については原稿依頼中(熊井会長)。

学会倫理憲章策定委員会(小野委員)：委員会開催経過と原案の報告

博物館連携委員会(熊井会長)：関係者と連絡を取り、評議員会で提案の予定。

### ・審議事項

#### (庶務)

学術著作権協会ILL(図書館間貸借)のインターネット利用に関する権利委託につき承認した。

大学評価・学位授与機構専門委員候補者として2名推薦することとした。

地質科学関連学協会シンポジウム協賛につき承認した。

学会事務センター元専務理事今野氏自己破産による債権の届出はおこなわないこととした。

#### (会計)

6月に会員あて発送予定の会費請求書に添付する文書を検討した。

#### (編集)

電子化(記念事業のバックナンバーPDFファイル化を含む)に伴う著作権問題：紙媒体とは別に電子媒体にともなう問題を解決する必要があり、会則にも加える必要がある。電子化により会員としてのメリットがなくならないよう工夫が必要である。総会に向けて継続審議することとした。

#### (行事)

50周年記念大会(2006年東京)の日程と会場については8月上旬、首都大学で検討中。

#### (その他)

学会倫理憲章策定委員会：倫理憲草原案の検討と一部会則改定の案文は幹事会で整備する。

次回幹事会は2005年6月25日(土)開催の予定。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。  
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。  
第四紀通信は奇数月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757  
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。